

④研究集会・講座等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会（美07）	企画情報部	67
平成20年度 オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（美05）	企画情報部	68
近代の文化遺産の保存修復に関する研究会（*修06）	保存修復科学センター	69
国際文化財保存修復研究会（*セ01）	文化遺産国際協力センター	70
総合研究会（情）	企画情報部	71
企画情報部研究会（情）	企画情報部	71
保存修復科学センター研究会（保）	保存修復科学センター	72

- *注 ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究会は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①修06）の一環として実施した。
- ・国際文化財保存修復研究会は、文化財保存政策の国際的研究（②セ01）の一環として実施した。

第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 「オリジナルの行方—文化財アーカイブ構築のために」(④美07-08-1/1)

第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会は「“オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために」をテーマに、企画情報部の担当で開催した。近年の複製技術やデジタル技術の目覚ましい革新など、アーカイブを取り巻く環境は激変している。そこで文化財とは何かという原点に立ち返りつつ、“オリジナル”という概念を軸として、文化財アーカイブはどうあるべきかという問題意識の共有化を図る国際研究集会を企画した。またこの研究集会の関連企画として、2008年10月9日から12月25日まで東京国立博物館黒田記念館にて「湖畔VS湖畔」と題し、現代美術家の福田美蘭氏による《湖畔》を黒田清輝の《湖畔》と対峙させて展示を行った。

日時：2008（平成20）年12月6～8日、会場：東京国立博物館平成館大講堂
参加者数：のべ281名

基調講演：塩谷純「モノより思い出、思い出よりモノ」

セッション1：モノ／“オリジナル”と対峙する

何傳馨（国立故宮博物院）「二点の中国古書蹟における光学調査」

マシュー・P・マッケルウェイ（コロンビア大学）

「室町時代狩野派扇面画の“オリジナル”—宋画との関連—」

浅野秀剛（大和文華館）「肉筆浮世絵と浮世絵版画—浮世絵研究者にとってのオリジナル—」

岡塚章子（江戸東京博物館）「写真—オリジナルという認識の共有」

松本透（東京国立近代美術館）「現代美術とオリジナル」

セッション討議 司会：相澤正彦（成城大学）・山梨絵美子

セッション2：モノの彼方の“オリジナル”

タイモン・スクリーチ（ロンドン大学SOAS）

「「おじいさんの斧」：日本文化史におけるオーセンティシティと再生—宇治橋を例に—」

津田徹英「『諸説不同記』と「現図」胎藏曼荼羅」

シェリー・ファウラー（カンザス大学）「燈明寺（東明寺）「六」観音像をさぐる」

飯島満「古典芸能の伝承と変遷—人形浄瑠璃文楽の場合—」

綿田稔「雪舟というオリジナルな存在—作家論の功罪—」

皿井舞「仏像の修理・修復—サンフランシスコ・アジア美術館の脱活乾漆像をめぐる—」

清水重敦（奈良文化財研究所）「更新のオーセンティシティ—木造建築におけるオリジナル—」

セッション討議 司会：勝木言一郎・森下正昭

基調講演：加藤哲弘（関西学院大学）「オリジナルとその保存—文化財アーカイブの可能性と限界—」

セッション3：“オリジナル”を伝えること

鼎談：赤尾栄慶（京都国立博物館）・マーク・バーナード（大英図書館）・中野照男

「敦煌文書とアーカイブ」

山梨絵美子「サー・ロバート・ウィット・ライブラリーと矢代幸雄の美術研究所構想」

江村知子「遊興文化の残映—彦根屏風の光学調査と情報化—」

田中修二（大分大学）「屋外彫刻調査保存研究会の活動について」

総合討議 司会：佐野みどり（学習院大学）・田中淳

なお本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団および財団法人東芝国際交流財団より助成を受けた。

平成20年度 オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）（④美05-08-3/5）

第42回オープンレクチャー「人とモノの力学」

企画情報部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座を毎年秋に開催しており、本年で42回目を迎えた。昨年度同様、今年度も金曜日と土曜日の午後、2日間連続で開講し、聴講者の便宜を図るように努めた。今回も昨年度に引き続き「人とモノの力学」をテーマに掲げた。個々の講演内容は以下の通りである。なお、この講座は、上野の山文化ゾーン連絡協議会が主催して毎年秋に開く「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムとしても企画されている。

今回は2日間でのべ277人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、191人から回答を得た（回収率：68%）。結果は、「たいへん満足した」64人、「おおむね満足した」91人、「普通だった」13人、「不満が残った」3人、回答者の91%が満足感を得たことがわかった。

第1日：2008年10月3日（金）午後1：30～4：30、東京文化財研究所セミナー室

・勝木言一郎（東京文化財研究所）「鬼子母神の源流をたずねる」

鬼子母神は仏教における子供と安産の守り神で、その姿は右手にザク口の実を持ちながら、子供を抱く天女のような姿に表されてきた。台東区入谷にも「おそれいりやの鬼子母神」で知られる真源寺があり、なじみの深い神さまである。本講座においては、インドから西域諸国を経て中国、そして日本にいたる、鬼子母神伝播の過程を探った。

・中川原育子（名古屋大学）「クチャ地域の石窟に描かれた供養者像とその信仰について」

新疆ウイグル自治区のクチャは古代亀茲国にあたり、仏教国として大いに栄えた。この地には多くの石窟寺院、地上寺院が造営され、現地に今なお遺跡として残っている。本講座では、キジル石窟、キジルガハ石窟、クムトラ石窟の3石窟寺院をとりあげ、供養者の種別、人物構成、供養儀礼のあり様、服制などを中心に紹介し、亀茲国の仏教信仰の一端を、石窟内に描かれた供養者像の分析を通じて解き明かした。

第2日：2008年10月4日（土）午後1：30～4：30、東京文化財研究所セミナー室

・田中淳（東京文化財研究所）「写真のなかの芸術家たち—黒田清輝を中心に」

公私にかかわる記念として撮影されたポートレート、また生活のひとつまであるスナップ写真など、写真はいろいろな場面で撮影されてきた。そうした写真の中に残された芸術家たちの姿には、作品、もしくは日記などの文字の記録からはうかがうことができない、芸術家の創作の営みが認められる。本講座では、黒田清輝（1866—1924）、有島生馬（1882—1974）をとりあげ、彼らの芸術創作のありようを明らかにした。

・青木茂（文星芸術大学）「明治10年・西南戦争と上野公園地図」

日本で最も有名な銅像といえば東大寺の大仏と上野公園の西郷さんと言える。上野戦争（明治元年1868）の功臣西郷隆盛は西南戦争では逆賊となったが、それにもかかわらず、上野公園に造られた銅像は「西郷さん」と愛称されている。上野公園はもともと寛永寺の境内であったが、そこは上野公園の制定と計画によって大きく変化を遂げた。本講座では、博物館や美術館が建てられ、現在のようにイベント会場となるに至るまでの上野公園地の歴史を考察した。

近代の文化遺産の保存修復に関する研究会 (①修06-08-3/5の一部として実施)

平成20年度は、近代化遺産の中でも鉄構造物の保存と活用を主なテーマとして研究を行った。国内において重要文化財に指定されている鉄構造物（三井万田坑竪坑櫓、富岡製糸場内の鉄製水槽）の保存と修復・活用に実際に携わっておられる方を、また、鉄を腐食から守る為に使用される塗料メーカーの方を招いて、東京文化財研究所の地下セミナー室において、鉄構造物も含めた建造物の研究者の方々にご参加いただき、各研究者の視点から鉄構造物の保存と活用に関する研究会を行った。

第22回「鉄構造物の保存と活用について」

日 時：2008（平成20）年11月7日（金）

会 場：東京文化財研究所セミナー室 13：00～17：30

講演者：中山俊介（東京文化財研究所）「鉄構造物の保存と修復」

中内康雄（（財）文化財建造物保存技術協会）「鉄構造物等の保存に関する事例」

津村泰範（（株）文化財保存計画協会）「旧万田坑施設第二竪坑櫓の調査工事を通して」

新谷憲生（日本ペイント（株））「鉄構造物の保存と修復について」



万田坑における調査風景

国際文化財保存修復研究会（②セ01-08-3/5の一環として実施）

目 的

文化財は、個々の地域の文化と伝統を反映し、地域の人々の思いに支えられて現代に伝えられたものであり、その内容、材質、おかれている物理的な環境の違いとともに、文化財自体に対する人々の接し方、保存の考え方にも違いがある。国際協力による文化財保存とは、パートナーとなる国や地域の状況を理解し、同時に私たち自身の文化財保存についての考え方や方法を理解してもらいながら、互いの協力によって推進されるべきものである。日本の専門家による海外の文化財保存事業への参加がますます増えている現在、東京文化財研究所は、みずから国際的な文化財保存活動に参加するとともに、専門家相互のネットワークを作り、情報交換の場を提供していくことを大きな使命と考えている。このような目的から、国際文化財保存修復研究会を開催し、さらには文化財をとりまく社会の問題、文化そのものの問題など、多岐にわたる情報交換の場を提供している。

成 果

平成20年度は、以下のとおり研究会を実施し、またその報告書を出版した。

テ ー マ：遺跡保存と水

趣 旨：通常の遺跡保存は、水をいかに防ぐかという観点で行われるが、遺跡によっては水を完全に断つことが不可能な遺跡もある。本研究会では、水が豊富に存在する前提で保存が図られている遺跡についての情報を、参加者の間で共有する機会とした。

日 時：2008（平成20）年9月19日 10：30～17：00

会 場：東京文化財研究所セミナー室

出席者数：75人

講演内容：モエンジョダロ遺跡における水文学、水理学、地質工学—水との共存

リチャード・ヒューズ（遺跡保存コンサルタント）

仙台市富沢遺跡保存館における遺構保存の歴史と現状 佐藤洋（仙台市富沢遺跡保存館）

バイア水中公園：その保存と公開

ニコラ・セベリーノ、パオロ・カプート（ナポリ及びポンペイ特別考古学局）

報告書出版 1冊：『第22回国際文化財保存修復研究会報告書 遺跡保存と水』 08.12



発表風景

総合研究会 (④情)

総合研究会は、各部・センターの研究員が各自、テーマを設定し、研究プロジェクトの成果を発表し、それに対して所内の研究者が自由討論する研究会である。総合研究会の開催は企画情報部が担当する。平成19年度より独立行政法人国立文化財機構各施設に対し、総合研究会の案内を通知し、参加を呼びかけている。平成20年度は下記のスケジュールで実施した（会場：東京文化財研究所セミナー室）。

- ・ 第1回 2008（平成20）年7月1日（火）
江村知子（企画情報部）「彦根屏風の表現について—日本絵画史の視点から」
城野誠治（企画情報部）「光学的手法による彦根屏風の調査」
早川泰弘（保存修復科学センター）「蛍光X線分析による彦根屏風の彩色材料調査」
- ・ 第2回 2008（平成20）年9月2日（火）
津田徹英（企画情報部）「天平の脱活乾漆技法をめぐる二、三の問題」
- ・ 第3回 2008（平成20）年12月2日（火）
菊池理予（無形文化遺産部）「無形文化遺産としての工芸技術—染織分野を中心として—」
- ・ 第4回 2009（平成21）年1月6日（火）
山内和也（文化遺産国際協力センター）「パーミヤーン、そして中央アジア」
- ・ 第5回 2009（平成21）年2月3日（火）
北野信彦（保存修復科学センター）「桃山文化期の漆塗料の流通と使用」
- ・ 第6回 2009（平成21）年3月3日（火）
土屋貴裕（企画情報部）「中世伊勢物語絵の系譜—伝土佐光信筆「伊勢物語画帖」の位置—」

企画情報部研究会 (④情)

企画情報部ではほぼ月に1度のペースで美術史研究者による研究会を開催、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに議論によってその充実を図っている。平成20年度は下記のような研究会が行われた。

- 4月22日 文化財情報の発信と連携について—検索サイト「ALC」と「想—IMAGINE」を事例に
水谷長志（独立行政法人国立美術館情報企画室／東京国立近代美術館情報資料室）
丸川雄三（国立情報学研究所特任准教授／独立行政法人国立美術館客員研究員）
- 5月7日 五姓田派デッサン群の明滅 黒田記念館蔵満谷国四郎デッサン群を支点として
角田拓朗（神奈川県立歴史博物館）
満谷国四郎の画業における、黒田記念館蔵デッサン群の位置について
廣瀬就久（岡山県立美術館）
コメンテーター：赤木里香子氏（岡山大学）、杉野文香（倉敷市立美術館）
- 5月9日 ウィット・ライブラリーと美術研究所—その始まり、そして今日— 山梨絵美子（企画情報部）
「オリジナル」であることをめぐって—美術研究に対するその意義— 加藤哲弘（関西学院大学）
- 5月28日 「国風文化論」再考のための試論 皿井舞（企画情報部）
法勝寺八角九重塔の四面大日如来像—長勢・円勢作の安置仏は現存するか—
富島義幸（滋賀県立大学）
コメンテーター：山本勉（清泉女子大学）
- 6月27日 「天狗草紙」の作画工房—鎌倉南北朝絵巻研究を捉えなおすために— 土屋貴裕（企画情報部）
コメンテーター：相澤正彦（成城大学／当部客員研究員）

④研究集会・講座等

- 7月23日 有島生馬とフォトグラファー田中敏男 田中淳（企画情報部）
藤雅三《破れたズボン》再発見報告 高橋秀治（愛知県立美術館）
- 10月8日 美術館とオリジナル：コンテンポラリーアートをめぐる問題 森下正昭（企画情報部客員研究員）
- 11月12日 青邨・GUTAI・福田美蘭一国際シンポに向けて 塩谷純（企画情報部）
- 12月22日 室町肖像画の型 相澤正彦（成城大学／当部客員研究員）
- 2月25日 アナログ編集者は、なぜデジタル編集についていけなくなったか
—主に横浜トリエンナーレ08のカタログをめぐる— 三上豊（和光大学／当部客員研究員）

保存修復科学センター研究会（④保）

- (1) 「三角縁神獣鏡の謎に迫る—材料・技法・製作地—」
日 程：2008（平成20）年6月20日
会 場：東京文化財研究所セミナー室
参加者：60名
講演者：紋様および鈕孔形態からみた三角縁神獣鏡 福永伸哉（大阪大学大学院文学研究科）
鉛同位体比からみた“舶載鏡”と“仿製鏡”の材料 馬淵久夫（東京文化財研究所名誉研究員）
パネル討論「三角縁神獣鏡の謎に迫る」
難波洋三（奈良文化財研究所）、斎藤努（国立歴史民俗博物館）
- (2) 「博物館での文化財の保存と活用に関する国際的動向」
日 程：2008（平成20）年7月10日
会 場：東京文化財研究所会議室
参加者：37名
講演者：博物館での文化財の保存と活用に関する国際的動向 ヴィノ・ダニエル（オーストラリア博物館）
- (3) 「屋外等の木質文化財の維持管理 問題点と今後」
日 程：2008（平成20）年10月6日
会 場：東京文化財研究所セミナー室
参加者：79名
講演者：寺社等建造物や木彫像などの管理と生物被害上の最近の問題点
神田雅章（奈良県教育委員会文化財保護課）
文化財建造物の劣化診断と維持管理体制の課題と展望 藤井義久（京都大学大学院）
屋外で公開された文化財等を博物館内で展示、収蔵する際の対応について
本田光子（九州国立博物館）
弥生時代等の復元建物における維持管理の現状と課題 河上信行（河上信行建築事務所）
- (4) 「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」
日 程：2008（平成20）年12月4日
会 場：東京文化財研究所セミナー室
参加者：141名
講演者：博物館・美術館・図書館・資料館での継続性を考えた環境管理方法
前川信（ゲティ保存研究所）
建築物の総合環境性能評価手法と評価事例の紹介 白石靖幸（北九州市立大学）
九州国立博物館での保存環境を考慮した省エネ化の取り組み
松里征男（(株)菊竹清訓建築設計事務所）、安藤英崇（九州国立博物館）
埼玉県立歴史と民俗の博物館での保存環境を考慮した省エネ化の取り組み
野中仁（埼玉県教育局）、濱興治（(株)前川建築設計事務所）